
お姫様はニート

気晴らし作品投稿者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お姫様は二一ト

【ZPDF】

Z1466Z

【作者名】

気晴らし作品投稿者

【あらすじ】

ダメ人間邁進中の朔真は、ドジ子チビ姫様、フルと出会い、振り回される日常へと変るのであった。

思いついた設定が面白そうなので書き始めた作品なのでどういう形で連載していくのか微妙。

終わる事のない、くだらない日常を書くのがこの作品の未定で予定。あと前置きに書かれてるのは朔真の意味のない独り言です。

朔（前書き）

人には見えなくとも、そこに存在してゐる事を俺は知つていた。
だから見えない今までいいと思つてゐた。
でも時という角度の移り変わりで見つけられる。
それは、無を表すのではなく、始まりを表してゐた。

家中に響き渡るその音が、睡魔という正義に打ち勝ち、俺の体を玄関へと運んだ

「はい、どうぞ？」

さへおと通り廻してもう一度 我聖地は房ノ三

「す、すまぬ。ボタンが…・・・」

誰もしなか二た

が鳴り止ぬ音
の音イントーク
に異常があらひ
見

誰がこんな悪戯を。

そして戻ろうとする

「ま、待て。おぬしが朔真じやな」「

違う？下から？。

少しだけ視線を下げるときの頭が見えた

おめした弟真しおな」

予定通りに行ひ

「違います、それお隣じやないですか？」

なんじゃ、二郎は失礼したよ

そこで彼女は去っていった

悪を滅ぼし聖地への凱旋の途中、携帯という名の刺客が鳴り出すディスプレーに『妹』と表示されていて、取る事無く電源を切った

歩みを進めようとした時、ふと思いつ、おもむりに固定電話の線を抜いた

そうして、凱旋した俺の事を聖地は暖かく出迎えてくれた
まるで夢のような場所であった

「ぐ~~~~う」

「すぴ~~~~~」

・・・・・

・・・・・

・・・・・

・・・・・

「ピーンポーン、ピーンポーン、ピーンポーン、ピーンポーン、

ピーンポーン、ピーンポーン、ピーンポーン、

どりやら魔王は人間に悪の心がある限り、何度も蘇るなりしこ。
玄関を開けたが誰もいなかつた。

「ピーンポーン、ピーンポーン、ピーンポーン、ピーンポーン、

ピーンポーン、ピーンポーン、ピーンポーン、ピーンポーン、

眠氣のせいか、重い足を引き摺りながらインターほんを直しに行つた。

「無視するなと書つておるじやう！」

インターほんが治るとそんな声が足元から聞こえた

少しだけ視線を下げるに何かの頭が見えた

「おぬしが朔真じやな！」

頭が揺れてそんな声が聞こえた

「違います、それお隣じやないですか？」

「行つて来たのじや、両隣も！向かいも！…裏も！…斜め向かい
も！…斜め裏も！…八軒全部…………全部の家がこの
家の家人だつて言つておつたのじや！」

こんな朝早くに、なんとも律儀に近所迷惑を

「あ～解つた解つた。今眠いから、三時間後くらいに来てくれ」

そう言つて玄関を閉めようとすると

「待つのじや！！」

銃口が俺に向かはれた

11

シナリオノウハウ

物理攻撃より先魔力攻撃に弱

であつた

「おやすみ」

な！！

בְּרִיתָהָה

「ナガハシ

「 ～～～～～ ！ ！ ！ ！ ！ ！ ！ ！ ！」

「起きたのじゃ~~~~~！――

ビターんと放たれた、ギャグ補整と集束のコンボは、睡魔という最強の魔法攻撃よりはるかに強い物理攻撃であった

「で? アンタどうひるさん?」

頬に冷蔵庫から出した、保冷剤を当て振り返りながら、居間のソファーに座っている不法侵入および暴行の犯人にそう言う

完全に目が覚めてしまつた。 てか床に座れや。

。這就是我們的問題。

ランクリス王国の、姫じや！」

なにの名前
それほどこの国ですか？ てか本物？

三一七
新編卷之三

「で？ そんなお姫様が何用？」
さつさと用件終わんね～かな。

「つむ、それは、昨日見た花がよい出来じゃつたので、それで話を色々聞こうと思つて来たのじゃ」

「花～？」

「どこから花が？お姫様は花を見たら知らないどこかの人と会いたくなるものなの？」

「正確には花のデザインといつたほうが正しいじゃろ？」

・・・花のデザイン、昨日

まさか・・・・・。

「もしかしてミカの結婚祝いにおくつた花のことを言つてゐるのか」
ありえないと思いながら言つてみる

だつて普通に考えてバカじやなきや無理だもん。

「そうじや、おぬしの妹の結婚祝いに送つた努力の奇跡じや」

バカでしたコイツ

「おかしいだろ！だつてミカの結婚会場は旦那の国、ヨーロッパだぞ！時間的に考えて直で来たのかよ？！」

「そうじや

ありえね～。

そう思つがあの会場でしか知る事ができない話なので嘘じやないだろ？

それにもしても、コイツ本当にお姫様かも？重度の世間知らずつポイし
「ん～ん、ま～その話は置いておく事にして。花だつたか？アレは
そんなに難しいデザインじやないだろ？」

「その話ではない、あんなデザインと、その込められた意味。アレ
を作つたおぬしに興味があつたのじや」

・・・・・

「アレは、そんなにたいした物じやない」

「そつかの？それにおぬしの妹も言つておつたぞ、基本的に優しい
人間じやが、少々違つたところに本質があるかもと、面白い忠告を
してもらつたと言つておつた」

！

「それを、きいた のか？」

できるだけ自分の同様を押さえながらひそかに言つた

いや聞いてないだろ？、聞いていれば「こんなところに来る可能性はない

あまりない

「うむ、自分でもあまり理解できない事じゃかりと、教えてくれん
かった」「

だよな・・・。

「遠い」ところから、はるばる悪いがアンタの理むよつな答へはない。
あの花はたいした物でないからな」

アレの本質は、そんな美談にできるよつな話でない

「そつかの？とても強い思いがあるよつに感じたのじやが
だから・・・。

「だから代わりに、先ほど言つていた忠告の話。アレは身内のミカ

だから教えた事だが、アンタにも教えよつ

「おお、それも興味があつたのじや」

・・・

「もし、自身を嘘つきだと言つ者がいたら、意味が解つていいのか
？と聞きた。解つていない者ならば、信じるな。解つてゐる者なら
ば、近づくな」

そのセリフはこの場を一瞬にして凍らせた

そして無用な追い討ちに、凍りついたこの場を打ち砕くよう

「俺は、嘘つきだ」

・・・

「話す事はもうない、お帰りいただこう

そのセリフに素直に従つのであつた

もう、誰もいない窓の外を見ながら罪悪感を募らせる
もつと優しくするべきだったかな？。

色々めんどうな位置にいることがわかるのだから
でも俺が心配するのは、逆効果かな？。

言い訳と、事実が心の刃をつきたてる

「ねむくね～」

災害は、起きた瞬間より、その後の方が大きな傷を与える物だ
「朝飯でも、食お」

「流石に睡眠ナシで昼からのバイトはキツイ」

でも来週のことを考えるとお金を少しでもためたいのも事実
バイトを終わらせて、一般家庭より少し遅い夕食を食べる

「唯一の救いは今日は夜のバイトが入つてない事かな」

明日は、かなり早い時間からのがあるが・・・

明日起きたるかな・・・。

だが、どうやら俺はもう寝ているらしい、夢を見ているのだから
だつてほらあの音は悪夢でしかないのだから

「ピ～ンポ～ン、ピ～ンポ～ン、ピ～ンポ～ン、ピ～ンピ～ンピ～ン
ピ～ンピ～ンピ～ン・・・・・・・・」

「だ～～～、お前は何故ボタンを埋め込む……」

「このボタンは高すぎるのじゃー届かないのじゃー！」

ジャンプ 押す ピ～ンポ～ン 着地 ジャンプ 押す ピ～ンポ～ン 着地 ジャンプ 埋まる ピ～ンピ～ンピ～ン着地ピ～ンピ～ンピ～ン
ピ～ンピ～ン・・・・・・・・

という事らしい

ありえね～。

「というか何しに来たんだよ……」

ボタンを直しながら聞く

するとその脇をすり抜け勝手に玄関を上がり

「家出した、おぬしのが大本の原因じゃから泊めるのじゃ

そう宣言した

朔（後書き）

不幸な姫の、次の話の内容がまだ固まってなくて、時間も開きそつたので、ある程度書き上がってたこの作品を間に挟みました。

「こひで 一言、この作品の主人公たちに言わせてください。」

「お前たち勝手に動きすぎなんだよ！！」

一応、第1話ということでストーリー的なものが伝わるよつに書きかつたのですが、あの一人がそんなの無視して勝手に喋る、動く・

・・・泣きたい。

それを何とか自重させて作品にしました。

この後どうなるかな・・・かなり心配。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1466n/>

お姫様はニート

2010年10月10日13時41分発行